



フッ素系イオン交換膜からの溶出PFASの分析

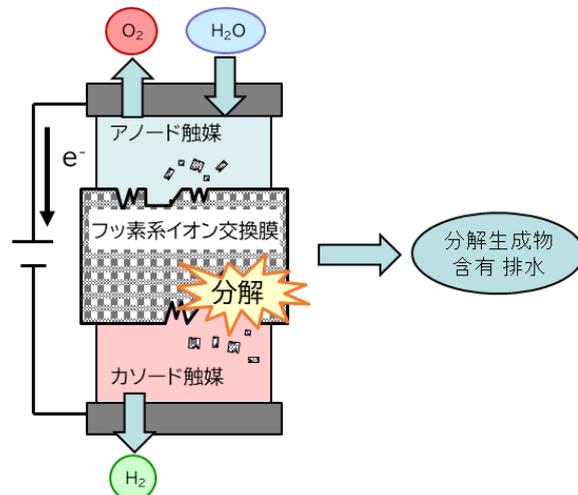
貴重なサンプルも1mLで確実に分析。安心の品質でご提供いたします。

フッ素系イオン交換膜とPFAS

フッ素系イオン交換膜は、水電解セルや燃料電池の主要材料として利用されています。しかし、連続して使用し続けると、極微量のPFASが排水に混入する可能性があります。

PFASは残留性・生物蓄積性などの懸念から、規制が進んでいる物質です。そのため、企業はPFAS排出量の管理が求められています。

このような極微量PFASの存在を確認するためには、大量の排水を回収して濃縮する必要がありますが、排水の生成量が非常に少ないため、分析には高度な技術が求められます。

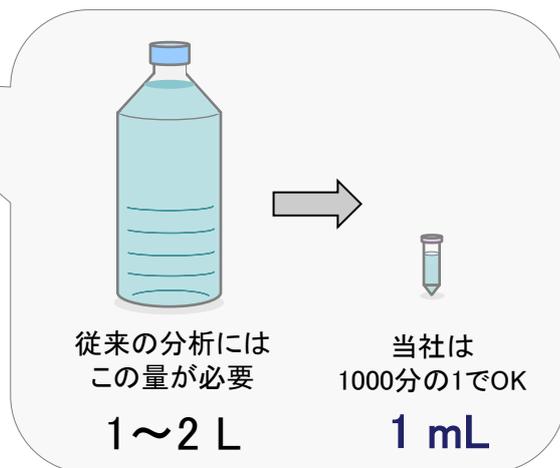


プロトン交換膜型 (PEM) 水電解セルの概要図

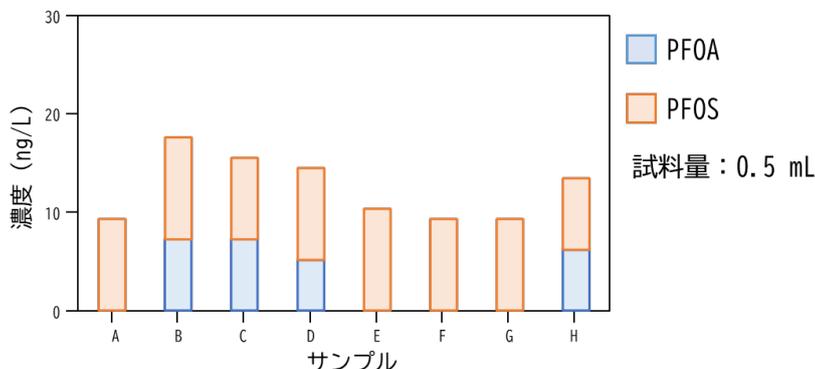
技術の特長

当社は、わずか1mLの試料から高精度な分析結果をご提供できます。

- 定量下限: 5ng/mL
- 分析成分: PFOA、PFOS、PFHxS
(EPA1633記載の40成分も対応可能です。)
- PFAS以外の有機成分の分析もご相談ください。
- 水電解セルを用いた劣化試験、極微量フッ素の分析試験なども承ります。



分析事例: PEM水電解セルからの排水に含まれるPFAS含有量の調査



トリプル四重極質量分析計 (LC-MS/MS)



JFE テクノリサーチ 株式会社

<https://www.jfe-tec.co.jp>

0120-643-777

Copyright ©2026 JFE Techno-Research Corporation. All Rights Reserved.
本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい。

